

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

皮膚科の臨床 (2003.08) 45巻8号:967～969.

臀部に発生したPoromaの1例

山内利浩, 高橋英俊, 山本明美, 橋本喜夫, 岸山和敬, 飯塚 一



症 例

臀部に発生した Poroma の 1 例

山内 利浩* 高橋 英俊* 山本 明美*
橋本 喜夫* 岸山 和敬** 飯塚 一*

要 約 69歳, 男性。左臀部に自覚症状のない小結節が出現し, 手術を施行したが, 皮膚切開を加えると皮下に囊腫様の結節があることに気づき, 一塊として切除した。組織学的に上部は eccrine poroma, 下部は poroid hidradenoma の所見を呈し, 一部に dermal duct tumor 様の部分も認められた。近年このような腫瘍が散見されるようになり, 一括して poroma として扱う Ackerman らの概念に合致する症例と考え報告した。

I はじめに

eccrine poroma は Pinkus らの報告以来¹⁾, 特徴的な組織構築と腫瘍細胞の形態から診断は比較的容易な腫瘍である。一方, 従来から poroma 様の腫瘍細胞の形態を有するものの表皮内のみに限局する hidroacanthoma simplex, 真皮内のみには胞巣状に集簇する dermal duct tumor が知られており, これらは Pinkus 型 eccrine poroma の亜型としてとらえられてきた。1990年, Abenozza と Ackerman²⁾ はこれに加えて真皮内のみにとどまり囊腫状構築を呈する腫瘍を poroid hidradenoma として挙げた。この結果 poroid cell を特徴とする腫瘍は, Pinkus 型, hidroacanthoma simplex 型, dermal duct tumor 型, poroid hidradenoma 型の少なくとも 4 型に分類され, これら 4 型は一括して「poroma」とも呼称されている。今回, われわれは Pinkus 型 eccrine poroma の下床に poroid hidradenoma を, 部分的に dermal duct tumor を思わせる部位を認めた症例を経験したので報告する。

II 症 例

患 者 69歳, 男性

初 診 1993年3月5日

家族歴・既往歴 特記すべきことなし。

現病歴 初診の数年前, 左臀部の自覚症状のない小結節に気づいた。徐々に増大してきたため, 北見赤十字病院皮膚科を受診した。

現 症 左臀部に直径 2 cm 大, 暗赤色で弾性やや硬の, 円板状で細い茎を有する有茎性の結節 (図 1)。



図 1 臨床像：左臀部の有茎性の結節

* Toshihiro YAMAUCHI, Hidetoshi TAKAHASHI, Akemi ISHIDA-YAMAMOTO, Yoshio HASHIMOTO & Hajime IIZUKA : 旭川医科大学, 皮膚科学教室 (主任: 飯塚 一教授)

** Kazunori KISHIYAMA, 北見赤十字病院, 皮膚科, 部長

〔別刷請求先〕 山内利浩: 旭川医科大学皮膚科 (〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1-1-1)

〔キーワード〕 poroid hidradenoma, eccrine poroma, dermal duct tumor, poroid neoplasm, poroma

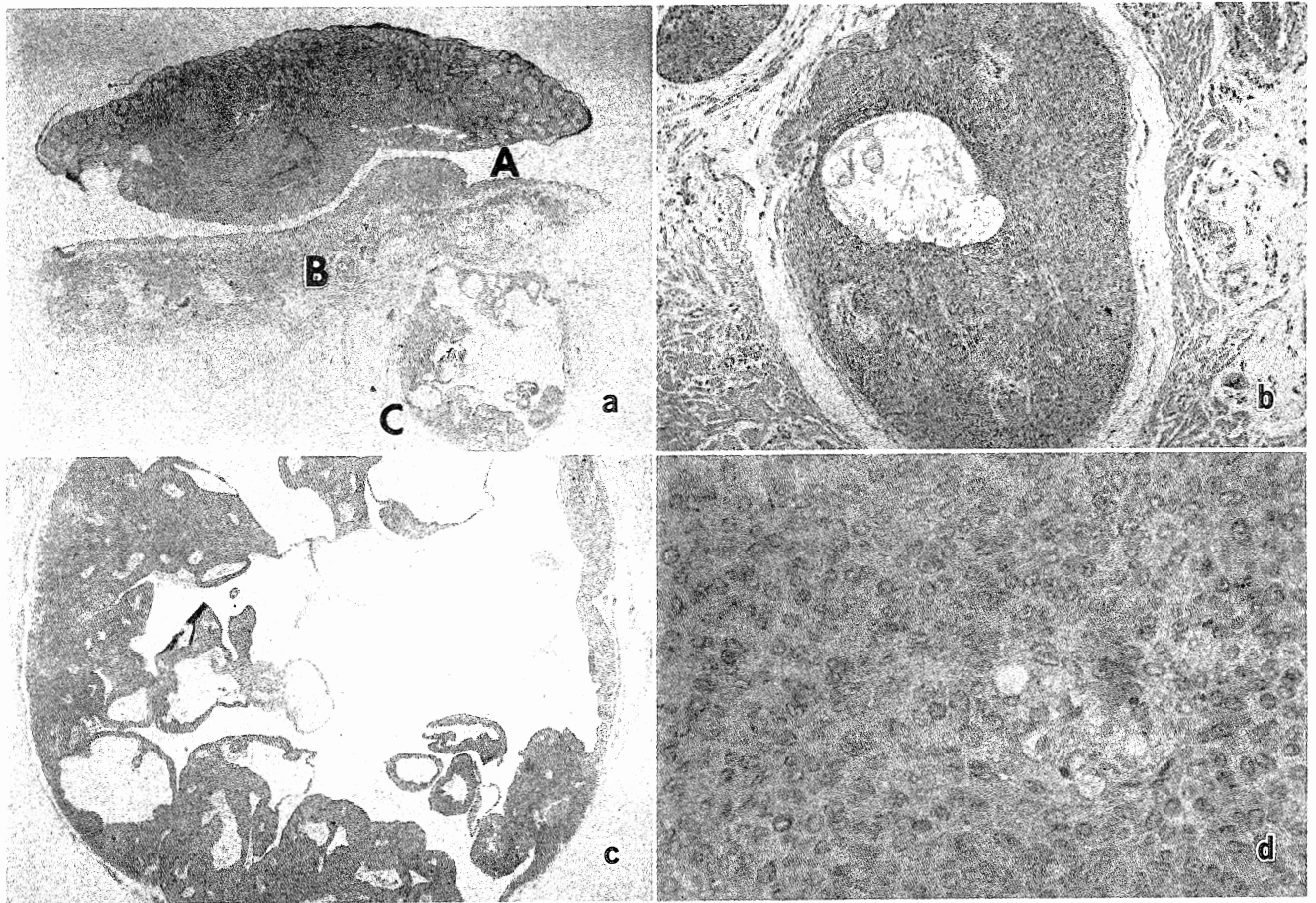


図2 病理組織像

- a: 組織全体像
- b: 真皮中層の小腫瘍塊
- c: 真皮下層から皮下組織の一部に充実性成分を伴う囊腫様腫瘍塊
- d: 強拡大; poroid cell および cuticular cell を認める。

治療 eccrine poroma を疑い、局所麻酔下に皮膚切開を加えると皮下に囊腫様の結節があることに気づき、一塊として切除した。

病理組織学的所見 腫瘍は主に3つの部分から構成されている。上部の有茎性に突出した部分とその直下の部分A、真皮中層の小さな腫瘍塊B、真皮下層から皮下にかけての腫瘍塊Cに分けられる(図2-a)。Aの部分は表皮と連続する網状の腫瘍巣で、腫瘍細胞は大部分が小型の円形ないし類円形の細胞であり細胞質の乏しい、いわゆる poroid cell から構成されている。一部では内部に好酸性の壊死物質を含む管腔様構造とその周囲に胞体の豊富な cuticular cell と、空胞化した細胞を認める。Bの部分は真皮中層の島状の小腫瘍塊で、腫瘍構成成分は基本的にAと同様の所見である(図2-b)。Cの部分は真皮下層から皮下にかけて大きな囊腫様構造を有する solid-cystic tumor で(図2-c)、囊腫壁を構成する細胞は

Aと同様の円形ないし類円形の poroid cell が主体で、一部では小管腔が形成され、その周囲に好酸性の大型の細胞質をもった cuticular cell と思われる細胞もある(図2-d)。一部では pycnotic な核を多数含む好酸性の壊死像を呈す。壊死周囲の細胞ではジアスターゼで消化される PAS 陽性の顆粒が豊富に存在する。

免疫組織化学的検索 CEA 染色では poroid cell は陰性で、管腔内腔面が陽性であった。EMA 染色は poroid cell に一部陽性、cuticular cell は強陽性であった。特にCの囊腫構造を形成する壁内側の細胞に強陽性を示した。DAKO社の抗keratin抗体を用いた染色では腫瘍細胞全体が陽性であった。A、B、Cの部分の染色態度に差異はなかった。

以上の所見より、Aの部分 Pinkus型 eccrine poroma、Bの部分 dermal duct tumor、Cの部分

表1 Poroma

① hidroacanthoma simplex (Smith & Coburn 型)	表皮内に限局する
② eccrine poroma (Pinkus 型)	表皮基底層から真皮網状層上部にかけて水平および垂直方向に連続性に増殖する
③ dermal duct tumor (Winkelman & McLeod 型)	表皮との連続性がなく真皮内に限局し充実性のもの
④ poroid hidradenoma (Abenzoza & Ackerman 型)	真皮内に限局する腫瘍のうち囊腫構造をとるもの

を poroid hidradenoma と診断した。

なお, poroid hidradenoma の部分と上部の腫瘍との連続像はなかった。

III 考 案

近年, Ackerman ら²⁾ は表皮内エクリン汗管の lower segment (下部 2/3) および真皮内汗管の uppermost segment に類似した細胞からなる腫瘍を poroid neoplasm あるいは poroma と総称し, 表皮との連続性, 腫瘍の存在部位および構造から 4 型に分類した。このうち, poroid hidradenoma は彼ら自身により加えられたもので, 表皮との連続性がなく真皮内に限局し囊腫構造をとるものとしている。これらをまとめて表 1 に示すが, 基本的に腫瘍構成細胞が poroid cell, cuticular cell よりなり, 腫瘍の存在部位および構築から分ける本分類は疾患概念を考える上で理解しやすく有用である。彼らはすべての poroid neoplasm (poroma) の共通要素として, 比較的単一な poroid neoplastic cell, duct への分化と cuticular cell, necrosis "en masse" を挙げ, まとめてしている。自験例では, これらの組織学的所見はすべて有していた。本邦でも, Pinkus 型 eccrine poroma (EP) と poroid hidradenoma (PH) の合併例は散見される³⁾⁴⁾ が, 自験例のように dermal duct tumor (DDT) を思わせる部分を有する症例は調べ得た限りではなかった。しかしながら広い意味の poroma の概念からすると, 同一病巣内にこれらの腫瘍の併存はあり得るわけで, 分類上も同系腫瘍として取り扱うのが妥当と考える。

そこで当教室において経験した EP 122 例を再

検討した。合併例は 12 例 (全体の 9.8%) あり, その内訳は EP+DDT が 10 例, EP+PH が 1 例, EP+DDT+PH が 1 例であった。このような合併例は検討してみると, 決して少なくなく⁵⁾, 一括して poroma とするのが妥当と考える。

なお, PH の鑑別疾患としては clear cell (apocrine) hidradenoma が挙げられるが, 特徴的な腫瘍細胞の形態から鑑別は容易である。むしろ, 従来 eccrine 起源と考えられてきた poroma のなかに近年, 毛包脂腺系への分化を伴う例が報告されるようになり, apocrine poroma という名称が使用されている⁶⁾。自験例では毛包脂腺系への分化を示す所見はなく, eccrine 起源と推定した。

自験例のように PH を含め, さまざまな「poroma」の像が同一病巣内に認められたことは, 疾患概念としての poroma を考える上で重要と考え報告した。

本症例の要旨は日皮学会第 333 回北海道地方会において報告した。

(2003 年 3 月 12 日受理)

文 献

- 1) Pinkus H et al: Arch Dermatol, 74:511, 1956
- 2) Abenzoza P, Ackerman AB: Neoplasmas with Eccrine Differentiation, Lea & Febiger, Philadelphia, 1990, pp 113-185, 311-350
- 3) Misago N et al: J Dermatol, 22: 773-779, 1995
- 4) 小笠原里香ほか: 皮膚, 39: 307-310, 1997
- 5) 坂井博之ほか: 臨皮, 46: 987-990, 1992
- 6) Kamiya H et al: J Cutan Pathol, 28: 101-104, 2001